

日本文理大学 地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）
平成 28 年度 事業検討・評価委員会 事業評価 報告書

平成 29 年 3 月 30 日
日本文理大学 大学 COC 事業
事業検討・評価委員会

評価基準： S:特筆すべき進捗が見られる。

A：順調に進んでいる。

B:やや順調に進んでいる。

C:やや遅れている。

D:遅れている・未実施

（総合評価、事業評価については、各委員の評価をもとに(別紙)にもとづいて判定を行う。）

【事業全体 総合評価】

総合評価： A

- 概ね順調に進んでいる。今後、地域における取組の広がり（横）と継続性（縦）について、県、市町村の取組を促すとともに、学際的な視点からの課題解決に向けた政策提案なども期待したい。
- 教育、研究、社会貢献すべての項目において、多彩な取組が全学的に推進され地域のための大学としての成果は大きいと思います。今後も柔軟で斬新な発想で行政や関係団体等に積極的な事業提案をされることを期待しています。また、より効果的・効率的な事業を展開するためには事業の再構築等も検討する必要があると思います。
- 意欲的に活動を展開している。ウィングを広げ過ぎて事業過多になることを心配するが、一年ごとに充実度を増している。
- 学生がプログラム参加を通じて大分を愛するマインドを養い、卒業後に県内就職等を通じて貢献するようになることを願っています。
- 二年目では、多岐にわたり地域との問題点解決のための接点ができたと考えられます、後はそれぞれの分野の研究成果にどう互換性を持たせ地域の問題点をまとめ上げるかが、課題になると思われれます。来年度の地(知)の拠点の整備事業を楽しみにしております。
- 地域プロジェクト実施で、4年生が1年間関わり続けても、卒業でまた1から関係づくりをしないといけなくなるケースが出てくる。1年生から4年までの学生グループを編成し、プロジェクトにあたっていくと継続性も生まれるし、学生同士で引き継ぎなどしやすくなるのでは。

委員評価：S (1)、A (6)、B (0)、C (0)、D (0)

【教育事業評価】

事業評価： A

- 地域志向科目数が目標180に対し222科目で、全体の40%、ゼミの60%となるなど成果をあげているが、副専攻制度、正課外活動の導入が目標に達していない。
- 学修サイクルの再編、学部・学科横断、学年縦断の教育を通じて、大分に愛着を持った優秀な地域創生人材が育成されていることから、今後も事業の着実な進捗と県内就職率のさらなる向上を期待しています。
- 正課教育として、1年生時から「体験交流活動」「課題解決に必要な知識の習得」などをとり入れ、本市では全域で活動展開していただいている。貴大学を挙げた意気込みと学生の真面目な活動は、一年ごとにステップアップしている。
- 地域創生人材育成のための学修サイクルの確立など、カリキュラムの再編に取り組み、効果が期待できる。
- 商店街の活性化に関して、これまで実施したプログラムでも十分に教育効果は果たしていると思われるが、中心市街地の活性化には若者の貢献が期待されていることから、今後より積極的に関与されたい。
- 地域での新しい問題点の発掘を行い、解決方法を探り、発見し、行動する、そして発表することにより、学びのPDCAのサイクルが出来上がっている。
- 大分市佐賀関など連携地域との体験活動を通じて、さらなる信頼関係も築かれている。年間を通して関わりながら、学生の積極的な意識の向上がみられた。

委員評価：S (2)、A (4)、B (1)、C (0)、D (0)

【研究事業評価】

事業評価： A

- 地域との共同研究を行う教員数が目標に達している。また、積極的に取り組む教員が増えたことが教育項目の地域志向科目数増にもつながっている。
- 本市では、貴大学との有害鳥獣対策に関する連携事業として、安価で地域住民にも簡単に操作できるIoTを活用したわな検知器と通報システムの開発研究に取り組んでおり、その成果に大いに期待しているところですが、各地域にはそれぞれ特有の課題があります。今後も地域住民との積極的な交流を通じて地域課題を把握し、各専門分野の視点から地域の課題を解決するための住民や企業等との共同研究や活動が進められることを期待しています。
- 徘徊老人の位置検出システム、見守りシステム、自然エネルギー利用型プラズマ農業の研究、生物多様性回復のための基礎的研究など、様々な課題にチャレンジしている。より完成度が高まることを期待する。
- 地域との共同研究を行う教員数が着実に増加しており、この点においても全学あげての体制が整いつつあると評価できる。
- 昨年より多方面にわたり研究開発ができ、地域創成の問題点を複眼的に解析している。
- 大学本来の事業である研究も、地域課題に直面したテーマに様々な機関と連携して取り組んでいる。

委員評価：S (1)、A (6)、B (0)、C (0)、D (0)

【社会貢献事業評価】

事業評価： A

- 地域向けボランティアの活動数が目標を上回っている。また、無作為アンケートによる県民の本学に対する本事業分野の地域貢献度の評価が42.1%と目標を大きく上回っている。
- 教育活動のほか、学生参加の公開講座、地域での体験活動や地域住民との意見交換などの取組により学生の社会貢献に対する意識が向上していることは高く評価されると思います。
- 豊後大野市全域で活動している。市民も日本文理大学の認知度が高くなっている。若者が地域に来て、地区民と話し、交流することに意義がある。価値がある。
- 地域で求められているのは、地域活性化のための産業振興や人材育成のために異分野同士のマッチングや多組織からなる協働を取り計らえるコーディネーターであると感じている。そのような人材の育成をプロジェクトの中で進めて頂ければありがたい。
- 小学生からお年寄りまで幅広い世代と交流し、様々なプログラムにより地域貢献を果たしている点は高く評価できる。今後は中高生等、更に対象を拡げることを期待したい。
- 学生が地域に入ることにより、いろんな効果があったと思うが、何と言っても地域を巻き込み、地域の人たちに希望を与えたことが最高に素晴らしい。
- なかなかすぐに結果がみえてこない分野・取り組みだと思います。県内各地の課題に取り組みたいところですが、今行っている活動の対外的な成果も見据え質を上げて行ってほしい。県内で連携できるNPOとのコーディネートの必要性があれば支援したい。

委員評価：S (3)、A (4)、B (0)、C (0)、D (0)

事業検討・評価委員会 学外委員

大分県 企画振興部 部長 廣瀬祐宏

大分市 農林水産部 部長 森本 亨

豊後大野市 副市長 赤嶺謙二

(一財)セブン-イレブン記念財団 九重ふるさと自然学校 代表 川野智美

日本政策投資銀行 大分事務所 所長 和田康宏

大分県中小企業家同友会 代表理事 佐藤貞一

NPO法人 おおいたNPOデザインセンター 代表理事 山下莖三

(別紙)

総合評価、事業評価の算出方法

次式により評価点を算出し、総合評価・事業評価判定表により、判定を決定した。

評価点＝

$(4.0 \times \text{S 評価の数} + 3.0 \times \text{A 評価の数} + 2.0 \times \text{B 評価の数} + 1.0 \times \text{C 評価の数}) \div \text{評価委員の数}$

※小数第2位を四捨五入とし、小数第1位までの数値で扱う。

評価点	>3.7	>2.7	>1.7	≥ 1.0	<1.0
総合評価・事業評価	S	A	B	C	D